

仕事や家庭で頑張る親に、高校生、大学生が感謝をつづる論文の表彰式が7日、岡山大キャンパス（岡山市北区津島中）で開かれた。論文は同大と岡山経済同友会、県でつくる「ダイバーシティ推進実行委員会おかやま」が募集。受賞者による作品の朗読では、わが子の幸せを願いつつ、朝早くから夜遅くまで奮闘する親への思いがあふれた。（民直弘）



仕事や家庭で頑張る親に感謝をつづった論文を読み上げる受賞者

頑張る親へ感謝

男女共同参画、働きやすい社会づくりを目指す同実行委による論文の募集は2017年度で3年目。今回は昨年8〜10月に県内外から57点が寄せられた。県知事賞などに高校生と大学生合わせて6人を選んだ。

朗読で、岡山経済同友会代表幹事賞を受賞した県立大（総社市）4年の荻野葉月さん（22）は母子家庭で育つ中で、母と1回だけ東京ディズニーランドに行った思い出に触れた。母は好きな物を買って食べさせてくれたと言いつつ「何年もこつこつと貯金し、子ども3人を連れていってくれた」と振り返った。

毎日、文句も言わず家事をして内職をしながらピアノなどの習い事をさせてくれた母に「ありがとつと伝えたい」と語った。母は、離婚した父と会社を立ち上げており「一般的な家庭とは少し違っただろつが、恥ずかしいと思っただけではない。多種多様な家庭があるから働き方にも多様な個性が生まれる」と訴えた。

同じ賞に輝いた岡山白陵高2年榎谷奈央さん（17）は父が開業医、母はその手伝いで忙しつ、家族で食卓を囲む機会はある

朗読者が受賞者

まりないものの、幼稚園のころから母が作り続けてくれている弁当のおかげで寂しさを感じないことを話した。

朝早く起きて1品ずつ丁寧に料理してくれた弁当を開けると、母とコミュニケーションしている気分になると明かし「直接顔を合わせる時間は少なくても確かにあなたの優しさを受け取っています」と締めくくった。

他の主な受賞者は次の皆さん。（敬称略）
県知事賞 中宗華（岡山白陵高） 王曉新（山陽学園大）▽岡山大学長賞 天満瞳（岡山白陵高） 青木康朗（山陽学園大）

式表彰論文実行委員会

表彰式は、ダイバーシティ推進実行委員会おかやまが開いた働き方を考えるシンポジウムの一環。パネルディスカッションでは、長時間労働の是正に向け、会議をペーパーレスにして資料準備の時間を減らしている損保ジャパン日本興亜（東京）、定時に退社する社員に「ノー残業手当」を支給しているはるやまホールディングス（岡山市）の取り組みなどが報告された。学生や企業経営者ら約200人が聞いた。